

令和 5 年度第 1 回佐賀市環境審議会議事概要

日時 令和 5 年 7 月 31 日（月）

10：00～12：00

場所 佐賀市清掃工場 2 階会議室

出席者

■環境審議会委員 14 人（敬称略）

岡島俊哉（会長）、松尾真理子（副会長）、田中宗浩、大渡啓介、小城原直、草場真智子
藤井律子、有森明子、大石文枝、中原正登、堤茂徳、松本考司、島崎健、多々良たまえ
（欠席：兒玉宏樹、大野博之）

■事務局

宮崎環境部長

環境政策課（梶山副部長兼課長、福本係長、香田係長、石川室長、吉谷主査、小柳主任、小田）
循環型社会推進課（馬場副部長兼課長、羽立参事、王丸副課長、三好係長、大園主事）

環境保全課（大家課長、岡係長）

衛生センター（熊添所長）

施設機能向上推進室（村里係長）

傍聴者

2 人

議事内容

(1) 第二次佐賀市環境基本計画の進捗状況について(事務局からの説明後、質疑応答)

【質疑】省エネ等の環境問題を把握し、取り組んでいる市民の割合のアンケートは、毎回同じ人にとっているのか。また、人数や地域などの情報はあるか。

【回答】佐賀市の総合計画において、地域を限定することではなく無作為に 5,000 人程度の市民の方を抽出し、3～4 割程度回収している。毎回同じ方にはなっていない。

【意見】年齢層によってもかなり違うと思うので、もう少し細かいデータの出し方の方が正確に判断できる。

【回答】次回以降の審議会の時には、ご意見も踏まえた資料を検討したい。

【質疑】個人でアライグマの捕獲をしているが、今年になってから全く捕れなくなった。既存のかご罠では捕まえにくくなっていると思うが、なにか対策は考えているか。また、アライグマ用の新しい罠が開発されているようだが、それについて検討はされているか。

【回答】佐賀市では捕獲従事者登録数も増え、捕獲実績も前年を上回るペースで推移している。餌だけを取って罠に入らないというケースもあるが、現行の罠でも捕獲可能と考えている。対策としては、アライグマの被害相談があった場所に罠を設置しつつ、生息が予測されるところに先行型で罠を設置して捕獲実績を上げていきたいと考えている。新しいタイプの罠は確認していないので、今後検討させていただきたい。

(2) 佐賀市環境マネジメントシステムの運用状況について(事務局からの説明後、質疑応答)

- 【質疑】資料 1 の市域の二酸化炭素の削減量はどのように算出しているのか。基本的に ISO14001 の算出方法に基づいているという理解で良いか。
- 【回答】ISO14001 とどこまで重なっているかは確認していないが、国が定める算定対象を基準として、中核市が出すべきものを算定している。二酸化炭素は、エネルギー使用量とごみ焼却から発生する分が算定に含まれているが、施設エネルギーや車両の使用から発生するものが大部分を占めている。
- 【質疑】環境法令の理解不足による不備の中にフロン排出抑制法とあるが、不適合内容を教えていただきたい。
- 【回答】業務用エアコンは出力規模 7.5kW 以上であれば少なくとも 3 年に 1 回法定点検を受けなくてはならない。小さなものでも毎年 3 か月に 1 回以上の簡易点検が必要である。このような点検が適正に行われていなかったというケースが見られる。
- 【質疑】グリーン購入推進について、全部門で目標達成率 100%を目指すとなっているが、未達成理由でそもそも適合商品がないと書かれている。そういったものを割合算出から除外する、対象外とするということはしていないのか。
- 【回答】一部対象外としている項目もある。除外するかどうかは今後検討が必要ではあるが、使用者側が業者に相談することで、業者がそういったものを開発することに繋がるように、今ないから外すというところまではしていない。

(3) 第 3 次佐賀市地球温暖化対策実行計画の策定について(事務局からの説明後、質疑応答)

- 【意見】佐賀市は公共交通機関が発達していないので、車から発生する二酸化炭素が多いというのは、そうなのだろうと思う。スーパーの駐車場でエンジンをかけっぱなしにしている人を見るので、市民の方に危機感を持ってもらうということを行政にはやっていただきたい。
- 【意見】佐賀市は晴天率が高いので、太陽光は非常に有効だと思う。ただ、最近山間部で木を伐採して太陽光パネルを設置している場所がたくさんあるが、野生生物の住処をつぶしてまで設置するのは本末転倒であるように思う。
- 【質疑】EV の充電インフラ等の整備促進とあるが、佐賀市において目標値はあるのか。
- 【回答】国の方では、現在約 3 万基設置されているものを 2030 年度までに 15 万基に増やすという目標設定がある。ただ、地域特性もあるので、佐賀市としては設置台数の目標は設定していない。
- 【意見】太陽光と EV の親和性は非常に高いと思うので、ぜひ促進していただければと思う。
- 【回答】太陽光については自家消費型を進めている。それを EV 車で使っていただくというのが基本になると考えている。そこはセットで推進していきたいと考えている。
- 【質疑】脱炭素の視点として公共交通機関の利用促進とある。去年ぐらいからお祭りの時には佐賀市営バスを無料にされており、すごくいいことだと思っていた。ただ、日常生活の中でバス利用を高めたほうが促進に値すると思う。現状、佐賀市は交通の便が悪いのでそのあたりの具体的な対策は考えているか。
- 【回答】昨年のような無料の事業をやると、その後の乗車数が伸びる傾向にある。実際に使ったいただき、便利に感じていただいて、それが普段使いに広がっていくという結果もあったと聞い

ている。そこについては、都市政策課や交通局とも連携しながら計画に落とし込んでいきたい。

【質疑】二酸化炭素削減率 46%について、それぞれの組織が持ち寄った数値で実行計画を作成した場合、全然達成できないという可能性もある。46%削減というのをどのように考えているか。

【回答】46%は国も認めている非常に高い目標。あと 7 年しかないが、他部署の意識がそこまで至っていないのかなと思う。各部長を集めた環境管理委員会で情報交換をしている。また、施策を担当している課長クラスの会議で、各部署の施策や計画を脱炭素の視点で作成・実行していくという話し合いの機会が増えてくると思う。そういった機会を通じて佐賀市総合計画への脱炭素の要素を入れていく作業が必要になるので、全庁的に連携しながらやっていく必要があると考えている。

【質疑】それで 46%は達成できそうか。

【回答】46%は相当厳しいと考えている。ただ、国もバックキャスティングとして設定した数字なので、佐賀市は佐賀市としてそこを目指していかなければならない。非常に危機感をもって取り組むべきことだと考えている。

【質疑】佐賀市の場合、再生可能エネルギーは太陽光がメインになるのか。

【回答】太陽光が一番入りやすいところだと考えている。ただ、太陽光も自家消費というところが大事になるので、あくまで自家消費型の太陽光発電をどれだけ設置できるかが、中心になってくる。

【質疑】二酸化炭素の排出量で一番削減量が多いのが民生部門。これがすごく減っていて、ほかの部門はあまり変わっていないが、民生部門が大幅に減っている要因は何か。

【回答】民生部門の排出量が大きく減った原因としては、2018 年に国の統計資料が改善されたこと。電力の低炭素化、各電力会社の排出係数というものがあるが、それが電力会社の努力によって少しずつ下がっていること。コロナ禍の影響で、産業が縮小したことなどが原因になっている。

【質疑】排出係数が変わったことは分かるが、それは産業部門にも関係すること。特に民生部門が大きく減っているのは、主に電源の排出係数によるものか。

【回答】それもある。ほかには機械や設備の省エネ化が進んだことなども原因の一つとなっている。

【質疑】それは産業部門より民生部門が多いのか。

【回答】民生部門でも多くある。

【質疑】排出量削減に効果があった技術などを、施策の方に反映させるということは想定されているのか。

【回答】想定するべきところではある。しかし、非常に多くの要素が重なって排出量を計算しており、何がすごく効果があったのかが分かりにくくなっている。今後、分析を進めていきたいと考えている。

【回答】民生業務部門では、ホテルや学校のように空調等で電気を多く使用する業種が当てはまる。電気の排出係数が下がることで、排出量としては減少傾向にあったというのが今までの流れである。それに加え、経産省から照明の交換や高効率空調に対する補助金が手厚く行われていたため、その影響も大きいのではないか。

【質疑】運輸部門の排出量が多いと思うが、電気自動車にシフトしていくことでの影響や効果はある

程度定量化できているものなのか。

【回答】ガソリン・軽油をどれだけ使用したかの統計データがベースになっている。このデータは県単位のものしかない。実際の推計においては、ガソリン車・軽油車の保有台数を元に按分推計という形が一般的に取られている。なので、電気自動車の割合が増えれば、按分推計かける際の割合が減るので、電気自動車の保有台数増加は推計に反映されると思う。

【質疑】佐賀市の場合、大体このぐらいの削減効果に繋がるというような試算はされているか。

【回答】ガソリンの消費量と電気自動車の電費の差から排出の削減量が試算できると考えている。今後の検討の中でそこをお示しできればと考えている。

【質疑】統計データが県単位なのは、佐賀県のナンバープレートが佐賀しかないからか。

【回答】ナンバープレートは関係なく、県単位の統計になっている。

【質疑】温室効果ガスの排出量について、電気の使用量は下がっていないが、排出係数が下がったため、数字上は下がったということか。

【回答】エネルギー消費が下がっていないわけではない。都道府県別エネルギー消費統計を見ると、家庭と業務に関しても減少傾向にあるというのが見られている。ただ、その減少分以上に、排出係数の減の効果の方が大きいので、見た目上は係数の影響が大きく見えてしまうことがある。

(4) 佐賀市におけるプラスチック分別リサイクルについて(事務局からの説明後、質疑応答)

【意見】紹介された事例では公民館で回収されているが、佐賀市の公民館はそんなに広くないので、このようなものを置かれたらどうしようもなくなる。なので、拠点というのは非常に難しいと感じている。ごみステーションにそのまま出せるように、リサイクル用の回収袋を作って、こうしてくださいという環境教育を小学校からするのが良いのではないかな。

【意見】小学校では分別をしている。資源物、紙、ビニールでごみ箱を分けて出すという教育を学校版の環境 ISO で取り組んでいる。小学校ではそのような取組をしているのに、大人の社会になったときに、ピンクのごみ袋に全部入れて良いというのは、学校では分けているのと思う。

【意見】ごみステーションに出ているペットボトルごみを見ると、周りの紙をちゃんとはがして、キャップを外してあり、透明のばかり入れてあるのがすごく目立つようになったので、意識は上がっているのではないかと感じる。

【意見】私の知っている小学校では、大きなカードが夏休み中に配られて、家族全員が 10 項目くらいの節電や分別をしないとシールが貼れないというのをやっている。家族みんな頑張らないといけないので、これが大人になったときに生きていけばと思う。

【回答】ごみ減量の基本は分別。それを市民の方にどうやって理解をしていただくか、そういう意識を持っていただくかというのが、すごく重要な視点。分別について周知しながら、ごみカレンダーを全世帯に配布したり、スーパーアプリ中のごみカレンダーミニアプリで見られるようにしたりと、若い方にも見ていただけるよう工夫もしている。こういった周知をしながら、意識を高めつつ、プラスチックの分別をなぜしないといけないのかというところも含めて説明をしていくというのが、行政として重要なことだと考えている。佐賀市は今年の 4 月からケミカルリサイクルという高度なリサイクル技術を持った業者と契約をしている。これ

までのペットボトルをリサイクルして、ペットボトルに戻るのは2〜3割くらいであったが、ケミカルリサイクルでは100%に近い形でペットボトルからペットボトルにできる。市民の方にもこういったところを強調して説明しながら、分別やリサイクル意識の高揚に繋げていきたい。

【意見】 拠点回収とステーション収集のどちらか一方というのは難しいと思う。どちらも良さと難しさがあると思うので、どちらもやっていただきたい。ショッピングモールではペットボトルの回収でポイントが付くというのをやっている。公民館に場所がなければ、ショッピングモールなどでできたら、お買い物時でも行けるので良いと思う。

【質疑】 プラスチックの排出でどのくらいのCO2増加につながっているのか。

【回答】 プラスチックの排出でどれくらいCO2の排出量があるかというのは数字的にはないと思う。分別リサイクルをしていく場合と、分別せずに焼却処理で発電した場合とで、CO2の排出量比較は今後やっていかないとはいえないと思っている。

【意見】 それによって、拠点回収が良いかステーション回収が良いかにかかわると思う。2050年実質ゼロとあるので、何かしら工夫しないとゼロにはならないと思う。

【回答】 温暖化対策の面では、ごみの焼却処理量の占める割合が大きいので、焼却処理量をどれだけ減らすかというところは重要なポイント。リサイクルに回せるものはリサイクルに回すということだが、一方で、分別、運搬、リサイクルの過程でエネルギーを使うので、果たしてどちらが脱炭素として良いかは、どのルートでリサイクルをするか、どのように処理をするかで変わってくるので、個別具体的に分析する必要がある。一般的に国が試算したものでは、一緒に集めて焼却して発電するのと、分別してリサイクルで回していくものとは、焼却・発電の方が若干CO2排出量が少ないという試算になっている。ただ、リサイクルは最終的に新しいリサイクル製品ができるので、新たに作るより石油消費量が減る。そこで少し逆転する。どこでとらえるかが重要なので、いろいろな視点から分析を続けていく必要がある。

その他

【意見】 なし